

## Music for a Sunday afternoon

### (アンサンブルを楽しもう)

アンサンブルは二人でするデュオから大きくはオーケストラまでたくさんの種類があります。

今日は高知大学の先生や学生の皆さんで色々なアンサンブルを聴いて楽しんでください。

まずアンサンブルが再現出来る状態で残っている最初の作品として、西暦 600 年頃に編纂されたグレゴリオ聖歌があります。これは当時ヨーロッパ各地でさまざまに歌われていたキリスト教の聖歌を、法王グレゴリオ 1 世がそれらを集めて、歌いやすい様に整理し各地の教会で歌わせました。今でもカトリック教会ではほとんど同じ形で歌われています。

お聞きになるとわかりますが全員がユニゾンつまり同じ旋律を歌っていて、まだハーモニー、和声がありません。これは重要なことからよく覚えておいて下さい。

その後西暦 1000 年頃までに一つの旋律に異なった旋律が重ねられ、三つになり、四つにと重ねられ、どんどんたくさんの旋律が同時に歌われる様になりました。これをポリフォニー音楽と言います。一番多いのは五十声部が同時に歌った曲も残されています。

グレゴリオ聖歌と違って、異なる旋律が重なってハーモニー（和声）が現れています。

その後西暦 1450 年頃にイタリアでルネッサンスが起こりました。ルネッサンスとは「復興」とか「再生」という意味ですが、これは昔のギリシャやローマの文化を求めようとした。

音楽でも四、五本のメロディーがそれぞれ緩やかでムリのない流れを作りながら、お互いにうまく絡み合って、縦の和音も工夫がされています。こうした音楽は対位法様式と呼ばれ、ルネッサンス時代に最も見事に美しく響き渡りました。

それではこの時代の代表的な作曲家である、パレストリーナが四本のリコーダーのために作曲した「リチェルカーレ」という曲をお聞き下さい。この「リチェルカーレ」というのは器楽だけで演奏される曲のことです。

リコーダーはソプラノリコーダー：岡松加奈子さん アルトリコーダー：桜井真由美さん テナー リコーダー：山崎亜里紗さん バス リコーダー：杉野孝次さん 以上高知大学教育学部芸文コースの皆さんです。

## 「リチェルカーレ」

皆さんありがとう御座いました。日本では豊臣秀吉の時代にあたり、フランシスコ・ザビエルが日本に宣教に来たときに、秀吉の前で演奏されたのはこういう曲であったと思われます。

さてその後西暦 1600 年頃からはバロック時代と呼ばれます。バロック様式の建築も建てられ、音楽もオペラが始めて作曲され演奏されました。このバロック時代の音楽の特長は、ポリフォニー音楽では旋律が何を歌っているのかわからなくなった為、旋律がよく聞こえる様に作曲されました。そして伴奏は一番低い音つまりバスだけが譜面に書かれています。今日の演奏ではチェンバロの左手とファゴットがそれを演奏しています。チェンバロの右手は演奏者がバスの譜面の上に書かれた和音を表す数字を見て、即興演奏をします。

この様な演奏スタイルを通奏低音奏法、バツソ コンティヌと呼び、バッハにいたるバロック時代の大切な音楽の作り方となりました。

それではこのバロック時代をまとめ、今日の音楽の基礎を作った J.S.Bach の作品を聞いて見ましよう。

曲はカンタータ第 56 番「われはよろこびて十字架を負わん」BWV 56 からのバスの独唱です。カンタータというのは聖日の礼拝で歌われるもので、バッハは毎日曜日にカンタータを書いたそうです。本当に神業ですね。

演奏はバスを小原譲二さん、オーボエを私、脇岡総一、チェンバロを宮田信司さん以上高知大学教育学部教員と特別ゲストにファゴットの佐々木久生さんを迎えての演奏です。

J.S.バッハ：カンタータ第 56 番「われはよろこびて十字架を負わん」BWV 56 から

この偉大なバッハの後、音楽はモーツァルトやベートーベン等の古典派、ワーグナー等のロマン派、近代、現代へと続いていくわけですが、今日は最後にこの中から近代フランスの作曲家サンサーンスの作品を聞いて頂きましょう。

この時代は印象派の時代とも呼ばれ、絵画等においても見えた物そのままよりも、感じたものを大切に描くという作風が流行していました。音楽もロマン派のごってりとしたものから、もっとスッキリと美しい絵の様な音楽を表現しました。

ではサンサーンスの作品で「カプリース」と言う作品を演奏いたします。

フルートが井上乃菜さんクラリネットが岡松加奈子さん、お二人は高知大学教

育学部の 4 年生です。オーボエは高知大学教員の私、脇岡総一、とピアノは高知大学教育学部大学院の名護麻紀子さんでお送りいたします。

サンサーンスの作品で「カプリース」

皆さんお楽しみ頂けましたでしょうか？

高知大学教育学部生涯学習の音楽専修では、このように演奏を楽しみながら勉強しています。

又お会いいたしましょう！

チャオ！